

教員名	安田慎	所属学科	観光政策学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>「観光史から地域・社会を学ぶ」というテーマでゼミを行っています。観光の歴史を紐解いていくと、その時代や地域の人びとの「思い」や心性が見て取れると同時に、現代にまでその思いが様々な形で継承されている場合があります（「伝統・文化」といったものがそれにあたるかもしれません）。そうした人びとの「思い」を一緒に紐解いていくゼミになります。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>大きく3つの期間に分かれてゼミを行います。</p> <p>・2年次：観光史の基礎を学ぶ</p> <p>国内外の観光史に関わる基本文献を輪読しながら、観光史を学ぶ際にどのような資料を使うのか、どういった分析を行うのか、学生同士の議論を中心にしながら学んでいきます。その他にも、関連する観光地へのフィールドワークを行います。</p> <p>・3年次：グループ研究を通じて観光史を学ぶ</p> <p>グループで観光史に関わる特定のテーマを設定し（国内外・時代は問わない!）、それに関わる研究を行います。前半では関連する先行研究を紹介しながら、関連テーマに関する基礎的知識を養います。そのうえで、後半では関連文献を収集・分析やフィールドワークを行い、それをグループ研究の形でまとめていきます。</p> <p>・4年次：個人研究を通じて観光史を学ぶ</p> <p>これまで培ってきた研究手法を通じて、個人でテーマを設定し、資料収集や分析を行い、卒業論文を書き上げ、外部に自分の4年間の学術的成果を公表します。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>観光史を調べていくなかで、資料探索の為に各地で資料を集め、関係者の話を聞き、実際にその場に訪れることが多々あります。外に出るのが苦手でも、自分の好きなことは案外すんなりできたりします。その他にも、集めた情報から議論を組み立てることや、それを外部に発信するという作業は、学問的な領域を超え、どんな分野でも必ず付きまとう基礎的能力です。それを、楽しみながら鍛えられる点が魅力です。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山口誠. 2010. 『ニッポンの海外旅行 若者と観光メディアの50年史』 ちくま新書. ・ 平山昇. 2012. 『鉄道が変えた社寺参詣—初詣は鉄道とともに生まれ育った』 交通新聞社新書. ・ 河村英和. 2013. 『観光大国スイスの誕生 「辺境」から「崇高なる美の国」へ』 平凡社新書. 			
<p>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</p> <p>過去に起こった出来事は、化石のように何も語りかけない、つまらないものと考えられるかもしれません。しかし、時代や社会の変化のなかでも、色々な対話を生み出し、私たちを楽しませてくれます。それこそが、「歴史」の醍醐味なのかもしれません。</p>			